

こたえ 雪の結晶^{けっしょう}雪の結晶^{けっしょう}

空からふってくる雪を虫めがねで見ると、きれいな形をしたつぶが見えます。これを、雪の結晶^{けっしょう}といいます。

雪の結晶^{けっしょう}は、六つのかどがある形をしています。けれども、木のえだのような形や、六角のいたのような形など、いろいろなしゅるいがあります。

結晶^{けっしょう}の形は、雪ができた空の高いところのさむさや、空気の中の水の多さによってかわります。

雪をけんきゅうした中谷宇吉郎^{なかやうきちろう}という人は、「雪は天からおくられた手紙である」と言いました。雪の形を見れば、空の高いところのようすが分かるからです。

1 雪の結晶^{けっしょう}は、いくつのかどがある形をしていますか。



2 結晶^{けっしょう}の形は、何によってかわりますか。

ア ふってくる時間

イ 空の高いところのさむさや、水の多さ

ウ 地面^{じめん}の色

3 「雪は天からおくられた手紙」と言ったのは、どうしてですか。

雪の形を見れば、空の高いところのようすが分かるから。

4 雪の結晶^{けっしょう}を見るときにつかうものは、何ですか。

ア 虫めがね

イ ものさし

ウ じしゃく

おうちの方へ

- 中谷宇吉郎（なかや うきちろう）は、世界ではじめて人工の雪の結晶を作った科学者です。